

巻頭言



二つの責務

技術士全国大会実行委員会分科会委員長／北海道技術士センター 副会長
技術士（建設／総合技術監理部門）・工学博士

能 登 繁 幸

「士会連合会のCPD登録者が2万人を越える」という業界紙の記事。日本技術士会も頑張っているなあ、と思いきや、見出しの「士会」とは「日本建築士連合会」のこと。

わが技術士会。聞いて驚くな。CPD登録者はたったの2千人。技術士登録者のわずかに4%。地域別では北海道が13%。全国平均よりもかなり高い数字。北海道の技術士はエライ！といたいだが、それでも8人に1人。何ともはや、である。

CPD登録をしてもメリットがない。そんなヒマはないし、罰則規定もない。更新時の条件というのでもない。ならば無理してCPD登録をする必要はない、というのが理由か。

それでは聞かぬが、最新の知識を吸収しようとせず、毎日多忙なので勉強するヒマが無く、世の中の動きに無頓着な医者、そんな医者にあなたはかかりますか。推して知るべし。自己研鑽していない専門家は社会から信頼されない。技術士も同じ。技術士としての義務と責任を自覚しなければ、社会的信頼を得ることができないのである。

さてと、かなり前から「地方の時代」が来ると言われている。地方分権も今話題の道州制も、ホントは赤字国家がもっともらしく叫んでいるプロパガンダだ、との意見はさておいて、地方に住む人々が地方の意見を地方から発信し、地方のために行動するのは成熟社会の到達点なのだろう。

しかし自律の前に山積みの問題がある。環境、教育、高齢化、観光、雇用、健康……(なぜかKで始まる)。問題を解決するのは専門家の仕事である。

従来、技術士は「待ち」の姿勢であった。技術士なら誰もが知っている有名な三つの義務を反復して見ろ。そこには能動的な行動を促す雰囲気は全くない。地域社会に能動的に働きかける時間も、金も、意識もない、というのが実態ではなかったか。

しかし今、「地方の時代」の到来間近。地域社会は潜在的ながらも専門家に期待している。技術士もまた専門家の一人。「科学技術全般にわたる高等な専門的応用能力を持ち、資質の向上に努め、職業倫理をきっちり身につけた専門家」である(ちょっと汗)。技術士それぞれが身近な地域社会に目を向け、積極的に問題解決に関わっていくことが「地方の時代」の早期実現に必要なのである。市民と協働しながら豊かな社会の実現を目指す。それが我々技術士の使命なのである。

技術士の知名度が低い。原因は「待ち」の姿勢にある。社会に能動的に働きかけない、積極的な情報発信をしない、市民の中に入り込まないからだ。

技術士法が改正されて「資質向上」と「公益確保」という二つの責務が新たに明文化。CPDは資質向上の責務、社会貢献を意識することは公益確保の責務に繋がる。いずれも能動的に行動しなければ達成できない。我々技術士は、「良い技術」を提供してきた。これからは地域社会を構成する一員としてCPD登録を行い、地域社会に貢献し、地域社会が期待する「良き技術者」とならなければならないのだ。(名誉挽回のための追記:「士会」登録の1級建築士は30万人。従ってCPD登録者はわずかに6%。どこの世界も同じようなものなのである。)